「第78回 NPO 法人日本医学図書館協会総会」全体報告

小野澤繁雄*

埼玉医科大学附属図書館

I. はじめに

昭和49年度入会の関東地区内4機関（自治，独協，帝京，埼玉）のなかで総会地区代表機関を引き受けるのは埼玉が最後になっていた。順番は地区会が用意した場での予定機関間の協議によって決まったことだが，結果的に埼玉県で初めて総会が開催されることになった。

医科大学（医学部でも同じ）では学内に必要な会場が得られにくい。このため，今回を含む過去10回の総会で学内を会場とできた回は1回しかない。

大学に近い会場も捨てきれずにいた報告者の背を押してくれたのは吉田中央事務局局長（当時）である。会場は大学からは遠いが交通の便のよい大宮ソニックシティに決った。

II. 第1回組織委員会

組織委員会は，以下の10名で（平成19年4月1日から中央事務局局長交代に伴い1名増員）構成されることになった。

委員長 島津 邦男（埼玉医科大学附属図書館館長）

委員 高野 史子（評議員，東京医科大学）

諏訪部直子（評議員，杏林大学）

殿崎 正明（専務理事，日本医科大学）

吉田 公子（中央事務局局長，平成19年4月1日から個人会員）

木村 博（中央事務局局長，平成19年4月1日から）

高野 恭一（明海大学歯学部）

山下 和美（防衛医科大学校）

成田 俊行（埼玉県立がんセンター）

小野澤繁雄（埼玉医科大学）

柴田 義貴（埼玉医科大学）

第1回組織委員会は，平成18年10月5日（木）に大宮ソニックシティビル棟9階研修室903で開催された。

主会場，展示会場，分科会会場，懇親会場をそれぞれ小ホール，小ホール直上階の国際会議場，シティビル棟5階大中会議室，パレスホテル大宮としたことが報告され，会場間の移動，案内の必要箇所について説明が行われた。

メインテーマを「（協会）80周年」とした。

館長・司書会議について内容を80周年記念講演とパネルプレゼンテーションとした。

酒井シヅ先生（順天堂大学医史学研究室）がNLM（米国国立医学図書館）で世話になったというMichael J Northさん（Head of Rare Books & Manuscripts）を招きたいという，費用は財団法人内藤記念科学振興財団がもつ。このNorthさんと成田委員が推す武田文和先生（元埼玉県立がんセンター総長）のお二人に記念講演をお願いすることにした。

パネルプレゼンテーションとして韓国，中国のそれぞれ医学図書館協議会に発表者を出してもらうことにし，テーマを「韓，中国における medical librarianship について」とした。

改めてそれぞれ招聘交渉に動くことになった。

分科会については引き続き実施することにし，テーマについて議論した。委員会席上提案された2件のほか委員会の名でテーマ募集を行って，得られたものの中から成田委員が取りまとめを行うこととした。

展示募集については日程を聞いてくる業者もあり，早めに案内することになった。

エクスカーションはこの数年成立しない状況から行わない。宿泊についてはURLを付したホテルリストを提供するにとどめる，とした。

III. 第2回組織委員会

第2回組織委員会は平成19年1月18日（木）に会場ビル棟5階会議室502で開催された。席上行われた報告，

*Shigeo ONOZAWA : 〒350-0495 埼玉県入間郡毛呂山町毛呂本郷38. Tel.049-276-1416 Fax.049-295-9071
sonozawa@saitama-med.ac.jp (2007年8月23日 受理)

議論などは次の通り。

Northさんの来日費用は財団がもつ。その条件もあり、韓国、中国と組み合わせることにし、午後を米韓中一まとめのセッションとした。

50社（過去5回の出展企業）宛にブースの基本仕様などを付し展示募集を行った（1月12日付）。出展料は例年通りとし、今回は入金が殺到する時期でなく、申込と同時に出展料を払いこんでもらうことにした。

12月後半に行われた分科会テーマ募集の結果を受けて、柱になるテーマを4本とした。それぞれに世話役を決めた。順に諏訪部、高野（東医）、成田、山下の各委員である。司会者の候補を挙げ、司会予定者には第1回開催通知（3月初め）に間に合うよう100字程度以内にパラフレーズしたテーマを依頼するとともに話題提供者の人選もお願いすることにした。

なお、協会ホームページに分科会参加案内を掲載することにし、このなかで会員の参加費は無料、会員以外は1,000円とした（資料代）。

委員長から広告募集提案があり、過去の回に例もあることから試みることにした。

当日の協力委員の役割、必要人数、手配などを検討し、組織委員の役割も確認した。また主会場、展示会場の下見も行われた。

Ⅳ. 第3回組織委員会

第3回組織委員会は平成19年5月10日（木）に会場ビル棟8階会議室801で開催された。報告、議論などは次の通り。

分科会を含めてそれぞれ出席者数を確認した。

前日の理事会開催時間を1時間から2時間と延ばし、15:00から17:00まで、評議員会を2日目総会議事終了後の12:45から14:00までとした。

パネリスト予定者である唐小利（Tang Xiaoli、中国医学科学院・中国協和医科大学図書館）さんが来日できなくなり、この対応について検討した。

企業展示申込数は22社である（うち非維持会員は8社）。

広告掲載申込数が13社となり（うち非維持会員は11社）、予算の逼迫感がなくなったためドリンクサービスを予算化し、分科会会場にパソコン手配を行った。ドリンクサービスは集客を考えて主会場ではなく展示会場に置いた。

分科会では司会、話題提供者とも決まったため会場の設備条件を付し委員長名で依頼を行うことになった。

主会場は列、席番号によって496席を固定して使うこ

とができる。受付のし易さなどから固定席とし、受付で座席表を渡すことにした。席順も、これまでは西日本の機関が後席となっていたので今回は逆順とした。また分科会会場の下見も行われた。

なお、委員会の前に高野委員（東医、地区会事務局）にお願いし、地区内会員に向けて委員会名で協力委員のお願いをしてもらったところ、会場に近い居住環境の方など6名の方の申出があった。県内機関からも4名の方のお願いできることになり、報告者の館内、学内からの人選と合わせて必要な人数の協力が得られることになった。

以下に協力委員名を記す（組織委員会委員を除く）。

城山 泰彦（順天堂大学）

杉山 尚子（東京女子医科大学）

須田 陽子（東海大学医療技術短期大学）

岩下 愛（国立国際医療センター）

落合 圭（科学技術振興機構）

栗本 達児（科学技術振興機構）

高橋 成美（埼玉県立小児医療センター）

荒田 典子（明海大学歯学部）

泉 峰子（国立保健医療科学院）

丹羽 禮子（女子栄養大学）

林 美代子（埼玉医科大学）

山田いく子（埼玉医科大学）

本多 貞夫（埼玉医科大学）

忍田 純子（埼玉医科大学）

大野 稔（埼玉医科大学）

杉田 俊哉（埼玉医科大学）

Ⅴ. 総会前日まで

追加や変更が相次いで、出席者名簿の作成に多くの時間が費やされた。

別途作成された分科会出席者名簿は、準備段階を通して各世話役（委員）、司会と共有する。

合わせて入金確認を行うことになるが、領収書を求めるメールや電話が頻繁に寄せられた。領収書の送付は総会後にまで続いた。

看板類のレイアウト、設置場所、パネル前垂れ仕様など会場設営の打ち合わせが、会場側、設営業者との間でこちらから出向いて、あるいはメールやFAXを使って直前まで行われた。

分科会記録係原稿形式についても押し迫って検討が行われ、取りまとめに動いた成田委員案でゆくことになった。

懇親会準備がこの間に懇親会司会担当の高野委員（明

函)によって行われた。地酒手配、会次第の検討、胸花の用意などときに当館に足を運んでいただいたの打ち合わせになった。

とくに忙しかったのは総会資料出稿にこぎつけるまでの数日で、パネリスト抄録がギリギリで間にあった。印刷業者には1週間程度しか与えられず、名札を含めてすべてデータでの出稿となった。頼んだものは業者から直接総会前日午前に会場に届くように手配してもらう。

受付用品、受付地区や来賓などに仕分けされた受付用紙、持ちまわりの案内看板、胸花、座席表、昼食券、連絡事項、分科会配付資料なども総会前日午前中に会場に届くように手配する。

前日午前は事務局の2名(報告者、柴田)で手配された荷物のほか、(財)さいたま観光コンベンションビューローから手提げ袋、駅周辺案内図・市観光地図が届くのを待ち、受付の設営を行った。午後には委員長を含む組織委員、協力委員合わせて12名で総会資料などのセット作業や企業パンフレット類の袋詰め作業が委員長ともども皆汗だくで行われた。

ほかに地酒の搬入、パンフレットや書籍など3点の展示コーナー設営、武田先生、パネリストの韓相哲(Hang Sang-Chul, 全北大学校医学図書館)さんのそれぞれプレゼンテーション・データの機材チェックが行われた。また会場照明、壇上設営、マイク位置などについてプログラム順に最終チェックが行われた。

15:00から始まった理事会には委員長、報告者が途中から出席し、定足数、議決要件に必要な出席者数を確認するとともに準備状況を報告した。議長指名、決議の仕方などの打ち合わせがあり、議事録署名人(候補)も決まった。

パレスホテル大宮の3階の一間で夕刻に始まった関係者の顔合わせ、交歓の宴には武田先生、Northさん、酒井先生、韓さん、分科会の話題提供者である林美順(Lim Mi-Soon, 順天郷大学校病院図書館)さん、会長、専務理事、理事の方々、委員長、中央事務局局長、報告者が集まり、和やかな歓談の輪がいくつもできた。

VI. 総会初日(5月31日)

会場誘導係3名が最初に持ち場につくことになるが、開場時刻が9:00なので皆会場前で待つ。受付では事前に十分な打ち合わせができなかったため、慌しく各自持ち場につき、その場で簡単に打ち合わせをした。

会が始まる前の時間を使ってNorthさんにプレゼンテーション・データの機材チェックをしてもらう。

オリエンテーションのあと地区代表機関の島津館長の挨拶をもって館長・司書会議が開始された。午前の部は武田先生の80周年記念講演で幕開きとなる。略歴紹介など司会は挨拶に続いて島津館長によった。

総会司会が、創立80周年であるが、戦時中2回の休会があったため総会回次は78回となっていることをお断りする。

1時間の講演内容(テーマ「がんの痛みからの解放と緩和ケアもっと推進すべき新たな分野」)は、がん患者になる可能性のある者(我々すべて)にとって気持ちが明るくなるようなもので、終始明解で具体的指針に溢れたものだった。また医学図書館員にとっても関与が求められる部分を含む。

午後の部、殿崎協会専務理事を座長とするパネルプレゼンテーションではまず酒井先生がパネリストのNorthさんを紹介した。酒井先生はNLMの医史学部門で1950年代初めに収集され、カードにとられたのみで利用されることのなかったという日本コレクションの評価を依頼されて訪米調査に動き、そこで影響を受けたこと、次いで自身の日本医史学会理事長の立場から国内医学図書館での古医学書の散逸に懸念を持っていること、米国医史学会でのライブラリアンの存在感から医学図書館員の日

本医史学会への入会を促すなどの発言を行った。

逐語通訳を挟みながら行われた North さんのプレゼンテーションではまず米国で医学図書館司書職に就くための教育機会について報告が行われた。司書学修士を要件とするものの、インターンシップ、とくに OJT (On the Job Training) の重要性について触れ、そのあと、本人が寄り道と断ってはいたが、所属する NLM の医史学部門の紹介が行われた。なかで圧巻は、2,000 点にも及ぶ日本コレクションの紹介である (明治期末まで、うち江戸期とそれ以前で 1,000 点、その 7 割が印刷物、2 割が写本等、残り 1 割が版画、写真、巻物など)。後半は NLM で提供する Web サイトについて、全米 8 地区を結ぶネットワークの構成体 RML (Regional Medical Libraries) によって行われている情報提供や研修機会について、NLM の研修計画やアソシエイト・フェロシップ・プログラム、NLM のサービスを活用するために必要な教育機会の提供などについて報告が行われた。

韓さんのプレゼンテーションで核になるのは、KMLA (韓国医学図書館協議会) で 2006 年に始まった医学司書認定制度だが、詳しい紹介は翌日 (6 月 1 日) の分科会 1 (テーマ「医学図書館員としての専門性と認定資格制度」) で林さんによって提供された。その他内容は協議会の設立 (1968 年) から現在の会員数、活動内容について。司書職の種別、養成機関、医学図書館員の資格条件、役割、未来の青写真について。

ここで休憩に入り、休憩中に質問用紙に質問を書いてもらうことにした。

唐さんは来日できなかったが、抄録が届く (伊藤修之訳、総会資料)。内容は、前身となる組織の成立 (1985 年) から現在の中国大学高等院校医薬図書館協会の紹介、毎年 1 回行われる図書館管理の資格認証 (4 階級あり)、その他今後の課題に触れたもの。ここでは座長が抄録を読み補足する発言を行った。

休憩後の総合討論では North さんに彼の所属部門で働く者のバックグラウンドなどテーマに関連した質問が 3 件寄せられ、次いで韓さんに、司書資格取得者の就職状況について、唯一存在するという医学司書養成コースのコース概要についてなど 6 件の質問が寄せられた。

ほかに質問用紙によらない、職員の高齢化の現状と対応、司書の地位・処遇・報酬面、養成学校教員のレベル (資格要件) など 6 件について活発な質疑が時間一杯行われた。

懇親会では懇親会にしか出席しない維持会員、出展者、広告申込者で非維持会員の方々にも名札を用意し、受付で総会資料とともに渡した。出席者名簿 (総会資料) の維持会員の項では懇親会のみ出席も含む。お断りしておく。

会は大野委員 (明園) の司会で始まった。パネリストの紹介、山田久夫協会会長挨拶、埼玉医科大学を代表して丸木清浩理事長の挨拶があり、前回地区代表機関長原田信広館長 (藤田) が乾杯の音頭をとった。なお、埼玉医科大学山内俊雄学長も翌日の開会式と合わせて出席した。

会の最中に翌年の総会地区代表機関北海道医療大学総合図書館の細川眞澄男館長と関係理事との間で顔合わせも行われた。

持込みの地酒コーナーはとても人気だったときく。報告者には寿司コーナーの列の長さが印象に残った。

250 名前後の出席があり盛会だったが、会場が都心から近いこともあったのか、うち 80 名余が企業関係者である。

Ⅶ. 総会 2 日目 (6 月 1 日)

開会式は埼玉医科大学山内俊雄学長の挨拶で始まった。次いで、協会を代表して山田久夫会長の挨拶があり、引き続き来賓の方々の挨拶がプログラム順に行われた。

このうち林美順 (韓国医学図書館協議会理事) さんの

挨拶は英語によって行われ、代涛（Dai Tao, 中国大学
高等院校医薬図書館協会秘書長）さんは来日できなかった
のでとどいた電報（日本語にしたもの）を総合司会が
代読した。

来賓の方々を壇上に残したまま協会賞・奨励賞授与式
に移った。今回協会賞受賞者はなく、奨励賞（1篇）の
授与式が行われた。

選考委員会で行われた選考結果を市古理事が報告した
（総会資料に収録済み）。

受賞論文は3名（ともに所属は東京慈恵会医科大学）
の共同論文だが、阿部信一を除く宮下牧子、武山由紀の
2名が出席、登壇し、それぞれ賞状と副賞を受け取った。
式では宇佐見中央事務局局員が助手を務めた。

休憩を挟んで総会議事が行われた。

議事に先立って専務理事が新任館長（分館長・センター
長）、新任主任司書をそれぞれ紹介し、また司会が臨席
いただいた名誉顧問お三方、会友お一方を紹介した。

議長は地区代表機関長の島津館長が指名された。定足
数を確認し、議事録署名人を選任する（杉田、北川理事）。
なお、議事内容は「医学図書館」54巻3号に収録されて
いるので省く。また、一部に変更があったことから平成
19年度評議員名簿が総会資料に載せてある。

閉会式のなかで次期地区代表機関長細川館長から挨拶
をいただいた。この中で来年の会期（5月29日、30日）、
会場（京王プラザホテル札幌）が発表され、北海道での
再会を期す。

総会は以上で終了したため報告者は初めて会場内の自
席に坐って昼食をとり、次第に閑散となってゆくホール
内を見まわしながら安堵感を味わってもいた。

このあと場所をビル棟8階808に移して評議員会が行
われた。同じく6階601-604に移して分科会が行われた
が、別途会議録、この誌上に報告があるので省く。

分科会1-4出席者数は順に、25名、46名、62名、76
名（ともに司会、話題提供者を含む）である。会員外出
席者は、うち（話題提供者を除いて）6名である。

ほぼ時間通りに分科会は終了し、報告者は事務局の柴
田とともにレーザーポインターの回収や施錠に動いた。

VIII. おわりに

総会後も、支払、広告原稿戻し、欠席機関あて総会資
料送付、収支報告作成準備と残務整理が続いた。

総会は、関係する多くの方々の協力なくしてはできな
い。とくに直前1ヶ月間はバタバタとしているうちに日
数が過ぎ、1日が24時間しかないことが恨めしい、そん

な状況になった。そうしたなかで、いちいち触れないが、
組織委員会委員を初め多くの方々の自発的な協力に助け
られて間に合った。そんな感じがある。

地区会から10名の協力が得られたため、埼玉は会期
中も夜間開館を含め通常通りの開館ができた。ありがた
いことである。

組織委員（委員長を含む）3名を含めて会期中の埼玉
からの協力委員は館内、学内合わせて9名である。いろ
いろかかってくる電話に対応するなど、このほか留守居
役の存在も大きい。

木村中央事務局局長も局長を引き継いだばかりでご苦
労を多く担われた。宇佐見局員にも短期間に集中する仕
事、当日といろいろ役割を果たしていただいた。電話越
しでも中央事務局を身近に感じ続けた期間だった。

4月以降も個人会員の立場で引き続き組織委員に残っ
ていただいた吉田さんにも感謝したい。準備段階初期か
ら終始導いていただいた。

地区輪番制となってどのくらいたつのか？ 各地区で
協力し合うかたちにも意味があるように思われた。分科
会も地区での参加のし易さも含めて定着しつつある。

一番大事なものはなにより内容だと思う。2年前から、
気分的にはもっと前から準備段階にあり、プレッシャー
もあったが、そのかなりの部分は予算的なものである。
内容に見合った出費、そのことを心がけた積りだが、予
算規模が年々大きくなってきている。楽しかった、盛会
だった、との言葉も出席者から寄せられているが、気が
かりなことでもある。

第78回 NPO 法人日本医学図書館協会総会日程

平成19年5月31日（木）館長・司書会議

メインテーマ「80年を経た今、医学図書館員の在り方
を問う」

9:30～10:00 受付

10:00～10:15 オリエンテーション

総合司会 小野澤繁雄（埼玉医科大学附属図書館
事務長）

挨拶 島津邦男（埼玉医科大学附属図書館館長）

10:15～11:15 80周年記念講演

司会 島津邦男

「がんの痛みからの解放と緩和ケア—もっと推進
すべき新たな分野」

武田文和（元埼玉県立がんセンター総長）

11:15～13:00 昼食・展示見学

13:00～16:45 パネルプレゼンテーション・総合

討論

座長 殿崎正明 (NPO 法人日本医学図書館協会
専務理事)

演者紹介 酒井シヅ (順天堂大学医学部客員教授)

① 「The U.S. National Library of Medicine
and Medical Library Education in the United
States」 Michael J North (Head of Rare
Books & Manuscripts NLM)

② 「韓国における medical librarianship」
韓相哲 (全北大学校医学図書館)

③ 「中国大学高等専門学校医薬図書館協会と医
学図書館員教育」
唐小利 (中国医学科学院・中国協和医科大学
図書館)

16:45 ~ 17:30 展示見学

17:30 ~ 19:30 懇親会 (パレスホテル大宮)

平成19年6月1日 (金) 総会

9:30 ~ 10:00 受付

10:00 ~ 10:40 開会式

総合司会 小野澤繁雄 (埼玉医科大学附属図書館
事務長)

挨拶

山内俊雄 (埼玉医科大学学長)

山田久夫 (NPO 法人日本医学図書館協会会長)

来賓挨拶

井深順二 (文部科学省研究振興局情報課学術基

盤整備室室長)

富沢一郎 (厚生労働省医政局研究開発振興課医
療機器・情報室室長)

永井恒司 (日本薬学図書館協議会会長)

林美順 (韓国医学図書館協議会理事)

代涛 (中国大学高等院校医薬図書館協会秘書長)

奨励賞授与式

受賞者 宮下牧子, 武山由紀, 阿部信一 (東京
慈恵会医科大学)

10:50 ~ 12:30 議長選出・総会審議

議長 島津邦男

(1) 平成18年度事業報告

(2) 平成18年度決算報告

(3) 平成19年度事業計画 (案)

(4) 平成19年度予算 (案)

(5) その他

12:30 ~ 12:40 次期地区代表機関長挨拶

細川眞澄男 (北海道医療大学総合図書館館長)

閉会式

12:40 ~ 14:00 昼食・展示見学

14:00 ~ 16:30 分科会

1 「医学図書館員としての専門性と認定資格制度」

2 「患者図書室の必要性和設立のための問題点」

3 「オープンアクセスと機関リポジトリ」

4 「学術雑誌問題 (ー電子ジャーナルと ILL を含
めてー)」